

# KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先:虎ノ門事務室[メールまたは電話])  
 ※ 授業中の食事は控えてください。携帯電話はマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

| 科 目 名                |         | 科目コード          | 単位数                              | 開講期  | 講義形式                   |
|----------------------|---------|----------------|----------------------------------|------|------------------------|
| ワークライフマネジメント特論       |         | Z 207          | 1 単位                             | 1 学期 | ハイフレックス（※小室教授はオンライン登壇） |
| Work-Life Management |         |                |                                  |      |                        |
| 科 目 分 野              |         | 課 程 領 域        |                                  |      |                        |
| 組織人事マネジメント           |         | ビジネスマネジメント専門科目 |                                  |      |                        |
| 担 当 教 員 名            | メールアドレス |                | 連絡方法 / オフィスアワー                   |      |                        |
| 小室 淑恵<br>二瓶 美紀子      | —       |                | メールアポイントにて随時<br>（原則平日9:30～18:00） |      |                        |

| 関 連 し て い る 科 目 (履修推奨科目) |                 |              |
|--------------------------|-----------------|--------------|
| 企業戦略要論                   | 組織人事マネジメント要論、特論 | リーダーシップ要論、特論 |
| フォロワーシップ・リーダーシップ特論       |                 |              |

## 授 業 の 概 要 と 到 達 目 標

### 授業の主題と概要

ワークライフバランスは、いまや企業の成長と持続可能性を左右する「経営の中核課題」です。優秀な人材を惹きつけ、多様な働き手が力を発揮できる職場環境を実現しなければ、組織の未来を切り拓くことはできません。しかし、多くの職場では「制度は整備されているが使いづらい」「成果を出すために長時間働くしかない」という現実も根強く残り、変革への道筋を見失いがちです。本授業では、ワークライフバランスを単なる「福利厚生」ではなく、経営戦略として位置づけ、多様性を活かした職場づくりや生産性向上をどのように実現していくかを学びます。

- なぜ日本社会において働き方改革・女性活躍・男性育休が必要なのか。人口構造からマクロに学ぶ。働き方改革に成功した企業で起きたイノベーションの事例を学ぶ。
- 自らの職場を具体的に变革していく手順やツールを学び、受講者同士で主体的な議論を行う。
- 最終回は受講生による「プレゼンテーション」を予定する。ここでの発表内容を最終レポートに代替する。

これからの職場では、一人ひとりの働き方がチームや組織の成長に直結します。この授業を通じて、自身の課題を解決し、組織を次のステージへ導くための確かな一歩を踏み出すことを到達目標としています。

### 到達（修得）目標

ワーク・ライフバランスを経営戦略の一環として捉え、多様な人材が活躍できる職場環境をデザインするための視点とスキルの習得  
 自身の生活や職場において、ワーク・ライフマネジメントを実践できる力の修得  
 従来の働き方に固執する経営層や同僚に、新しい働き方の必要性和効果を伝え、実践を促す力の修得

### 受講対象者

- ・経営者やリーダーとして、働き方改革を経営戦略に組み込み、組織の生産性と持続可能な成長を実現したい方
- ・ワーク・ライフバランスを通じ、多様な人材が活躍できる職場環境をデザインする視点と具体的な手法を学びたい方
- ・組織内で新しい働き方を提案し、経営層や同僚に共感を得ながら実践を推進するリーダーシップを磨きたい方
- ・ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)や心理的安全性を経営基盤として活用し、イノベーションを生む職場文化を構築したい方
- ・働き方改革に関心があり、まずは自身の働き方を見直し、変革を組織全体へと広げていきたい方
- ・イノベーション・マネジメント専攻の全受講生・科目履修生

## 履 修 上 の 注 意 事 項 や ア ド バ イ ス

★課題には時間をかけすぎずに、効率よく準備をしていくことが求められる。

★履修前の必読本があるので初回までに読んでおくこと。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 担当する教員は実務家教員とする。

※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

## コンピテンシ修得目標

| 知識領域（Y軸）           |   | ヒューマンパワー（Z軸）   |   | 思考プロセス（X軸）   |   |
|--------------------|---|----------------|---|--------------|---|
| Y1: 基盤法令・テクノロジー    |   | Z1: 問題発見力      | ○ | X1: 企画       | ○ |
| Y2: 応用法令・実務・テクノロジー |   | Z2: 独創力        | ○ | X2: 構想       | ○ |
| Y3: グローバル法令・実務     |   | Z3: 問題解決力      | ○ | X3: 調査・分析    | ○ |
| Y4: マネジメント         | ○ | Z4: プレゼンテーション力 | ○ | X4: 設計・開発    |   |
| Y5: 戦略立案           |   | Z5: 変革推進力      | ○ | X5: 変革       |   |
| Y6: 標準化            |   | Z6: コミュニケーション力 | ○ | X6: 導入・運用    |   |
|                    |   | Z7: リーダーシップ力   | ○ | X7: 評価・検証    |   |
|                    |   | Z8: ネゴシエーション力  |   | X8: リーガルマインド |   |
|                    |   | Z9: オーナーシップ力   |   | X9: ライフサイクル  |   |

| プラクティカム     |                       |                                                          |                 |
|-------------|-----------------------|----------------------------------------------------------|-----------------|
| イベント / ケース  |                       | 教育技法                                                     | マテリアル / ツール     |
| 1           | 独自コンテンツの講義            | 講義＋質疑                                                    | PPT             |
| 2           | グループワークによる課題発見・解決策の提案 | グループワーク                                                  | PPT             |
| 3           | 受講生によるプレゼンテーション       | 発表＋質疑＋講評                                                 | プレゼンテーション・アンケート |
| 評価の方法       |                       |                                                          |                 |
| (総合評価項目と割合) |                       | 評価の要点                                                    |                 |
| 出席・受講態度     | 10%                   | 講義中の発言貢献:授業中の積極的な議論参加を評価する。<br>最終回のプレゼンテーションも含め総合的に評価する。 |                 |
| 講義中の発言貢献    | 45%                   |                                                          |                 |
| 最終発表会での内容   | 45%                   |                                                          |                 |
| 合計          | 100%                  |                                                          |                 |

| テキスト・参考図書など                                                                                                     |                                                | 備考                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|----------------------|
| ※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください                                                                          |                                                |                      |
| テキスト<br>(購入が必要)                                                                                                 | 「働き方改革」～生産性とモチベーションが上がる事例20社～<br>小室淑恵 (毎日新聞出版) | 第1回までに読んでおくこと        |
| 参考図書<br>(購入は任意・講師推奨)                                                                                            | 『改訂版 小室淑恵の即効プレゼン術』<br>小室淑恵 (学研)                | 第4回にプレゼンテーションを実施するため |
| 参考URL                                                                                                           |                                                |                      |
| 朝メール: <a href="https://work-life-b.co.jp/service/asacom.html">https://work-life-b.co.jp/service/asacom.html</a> |                                                |                      |

| コマ  | 学 習 内 容                                                                                         |                                           | 事前準備・課題                         | 担当者   | 時間  |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------------------------|-------|-----|
| 1.2 | なぜ日本社会において働き方改革・女性活躍・男性育休が必要なのか、よく誤解されるワークライフバランスの意義や必要性について、人口構造からマクロな視点で学ぶ。                   |                                           | 事前課題書籍「働き方改革」を熟読していることを前提に講義を行う | 小室・二瓶 | 90分 |
|     | 昨今の働き方改革の変遷、男性育休や介護等の法改正による影響を振り返り、実際に働き方改革に成功した企業で起きたイノベーションの事例を学ぶ。                            |                                           |                                 |       | 90分 |
|     | イベント                                                                                            | 職場や組織の課題を分析する。 自分自身の働き方を、ツールを用いて分析する。     |                                 |       |     |
| 3.4 | 働き方改革の全体像を振り返った上で、朝メール（自らの働き方を振り返り、課題を見つけ出すツール）で自身の働き方を分析し、解決策を考える。                             |                                           | 朝メールを用いて現状分析を行い、課題・原因・解決策をまとめる  | 二瓶    | 90分 |
|     | 働き方を主体的に変えていく「カエル会議」という実践手法を具体的に学んだ上で、その手法を用いて、参加者同士でテーマを決めてディスカッションを行う。                        |                                           | 自社もしくは自社が属する業界の自現状と課題分析         |       | 90分 |
|     | イベント                                                                                            | 企業、個人のワーク・ライフバランスについて分析するとともに、実現できない要因を探る |                                 |       |     |
| 5.6 | 各自が実践したカエル会議の中から気付きを共有し、より有効な働き方改革を実行するための知見を学ぶ。また、実践カエル会議として、ある企業を題材に働き方改革の課題や解決策を参加者者同士で議論する。 |                                           | プレゼンテーション資料の作成                  | 二瓶    | 90分 |
|     | 組織の風土改革に必要な、組織の成功循環モデルや理的安全性マネジメントなどのアプローチ方法を学ぶ。                                                |                                           |                                 |       | 90分 |
|     | イベント                                                                                            | ディスカッションを受けてワーク・ライフバランス実現のポイントを整理         |                                 |       |     |
| 7.8 | 「自組織や職場への働き方課題分析と解決策 提案と討議」<br>受講生全員によるプレゼンテーション                                                |                                           | プレゼンテーション資料のブラッシュアップ・発表準備       | 小室・二瓶 | 90分 |
|     | 「自組織や職場への働き方課題分析と解決策 提案と討議」<br>受講生全員によるプレゼンテーション                                                |                                           |                                 |       | 90分 |
|     | イベント                                                                                            | 作成したプレゼンテーション資料の発表                        |                                 |       |     |

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。

※ 学習内容、スケジュール、講義形式は、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。

専任教授 確認記録欄

確認者氏名: 三谷